

東広島市メールモニター「のんモニ」アンケート集計結果

アンケート	平成30年度第6回
実施期間	平成30年9月21日～平成30年10月3日
テーマ	地域包括ケアシステムについて
担当課	地域包括ケア推進課
登録者数	173人
回答者数(回答率)	70人(40.5%)

担当課のまとめ

●アンケートの目的

高齢者が可能な限り住み慣れた地域で生活するため、地域包括ケアシステムの構築(医療・介護・住まいに加え、介護予防、地域の見守りや支え合いなどの日常生活を支援する地域づくり)を推進しています。「地域包括ケアシステム」についてどの程度認識されているのかを把握するため、アンケートを実施しました。

●アンケート結果を受けて

今回のアンケートにより、地域包括ケアシステムの内容については約7割、また、地域包括支援センターの役割については、約6割の方に知られていないことが分かりました。また、若い方ほど認知度が低いことがわかりました。一方で、9割を超える方が、地域での支え合いが必要であると回答いただいております、地域での支え合いの仕組みづくりや、活動への支援の必要性を改めて確認することができました。

高齢になっても地域の中で安心して生活ができるまちづくりを進めていくため、地域包括ケアシステムの趣旨や、地域包括支援センターについて、まずは皆様にご存知いただく取組みが必要であることが分かりました。

●今後の施策について

少子高齢化が進む中、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で生活するためには、家族だけでなく、地域の皆さんの協力が必要となってきています。そのため、東広島市では、地域包括ケアシステムの構築のために様々な取組みを行っています。

今年度から、新たに地域包括ケアシステムの愛称を『ぐるっとマルごと東広島』(略して“ぐるマル”)として、市民の皆様にご存知いただくためのイベント『ぐるマルフェスタ2018』を開催しました。当日は、多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。来年度も開催する予定ですので、現在、介護に関わっていない方にも多数ご参加いただき、「ぐるっとマルごと東広島」の一員となっていただけるよう、イベントの内容等を工夫してまいります。

今後地域包括ケア推進課では、高齢になっても地域の中で安心して生活ができるまちづくりを進めるため、『ぐるっとマルごと東広島』について、自分の介護や家族の介護に直面する前から、理解・関心を持っていただけるよう介護予防や日常生活支援に携わる方を増やしていくための施策を進めてまいります。

●最後に

率直なご意見等を多数いただき、ありがとうございました。
皆様からのご意見、ご要望は市役所内で共有し、今後の施策の参考とさせていただきます。



【お問い合わせ】

地域包括ケア推進課: TEL(082)420-0984 FAX(082)426-3117

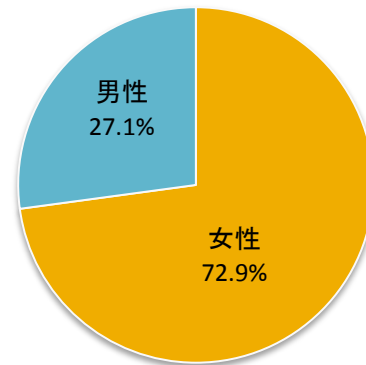
●回答集計

※端数処理のため、比率の合計が100%にならない場合があります。

【回答者の属性】

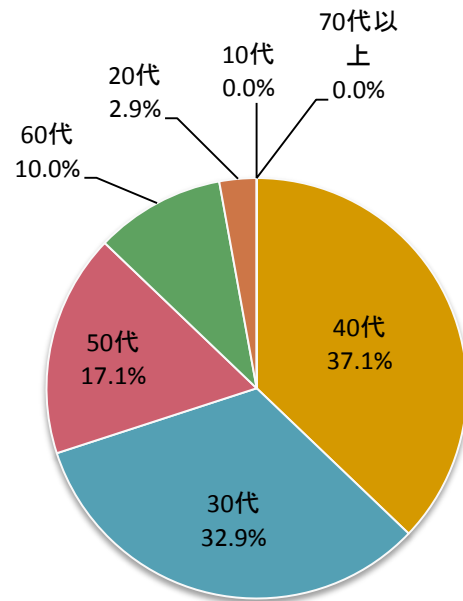
あなたの性別を教えてください。

順位	回答	回答数	%
1	女性	51	72.9%
2	男性	19	27.1%
	合計	70	100.0%



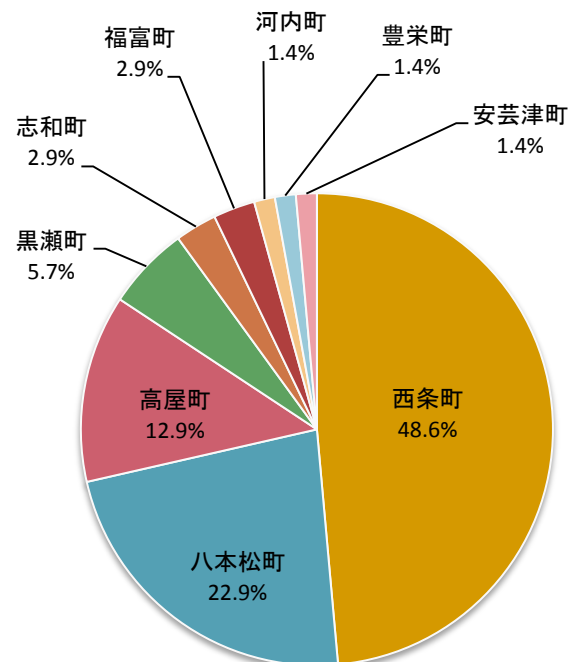
あなたの年代を教えてください。

順位	回答	回答数	%
1	40代	26	37.1%
2	30代	23	32.9%
3	50代	12	17.1%
4	60代	7	10.0%
5	20代	2	2.9%
6	10代	0	0.0%
6	70代以上	0	0.0%
	合計	70	100.0%



あなたのお住まいの地域を教えてください。

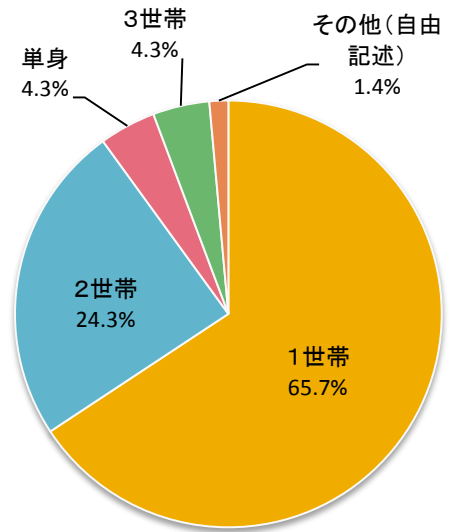
順位	回答	回答数	%
1	西条町	34	48.6%
2	八本松町	16	22.9%
3	高屋町	9	12.9%
4	黒瀬町	4	5.7%
5	志和町	2	2.9%
5	福富町	2	2.9%
7	河内町	1	1.4%
7	豊栄町	1	1.4%
7	安芸津町	1	1.4%
	合計	70	100.0%



Q1. あなたは何世帯で生活していますか？

2世帯・・・親世帯と子世帯、3世帯・・・祖父母世帯と親世帯と子世帯

順位	回答	回答数	%
1	1世帯	46	65.7%
2	2世帯	17	24.3%
3	単身	3	4.3%
3	3世帯	3	4.3%
5	その他(自由記述)	1	1.4%
	合計	70	100.0%

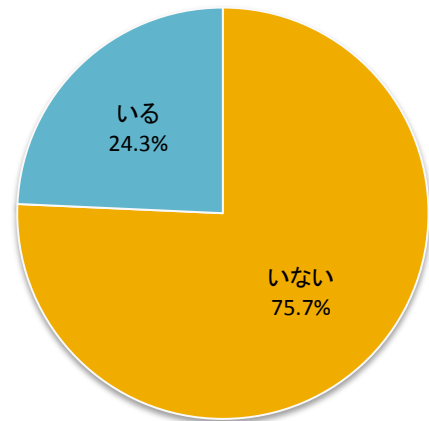


【その他の内容】

・親が高齢のため私が一人で介護。

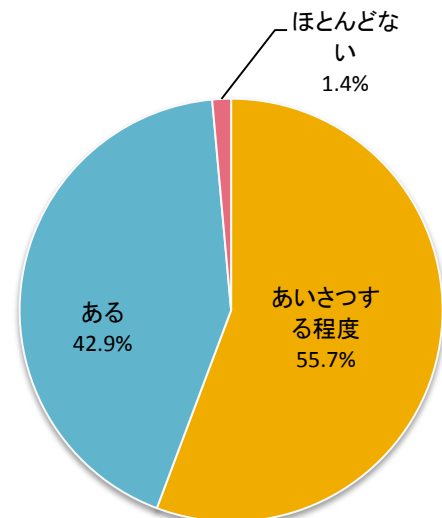
Q2. ご家族(別居を含む)に介護を受けている方はいらっしゃいますか？

順位	回答	回答数	%
1	いない	53	75.7%
2	いる	17	24.3%
	合計	70	100.0%



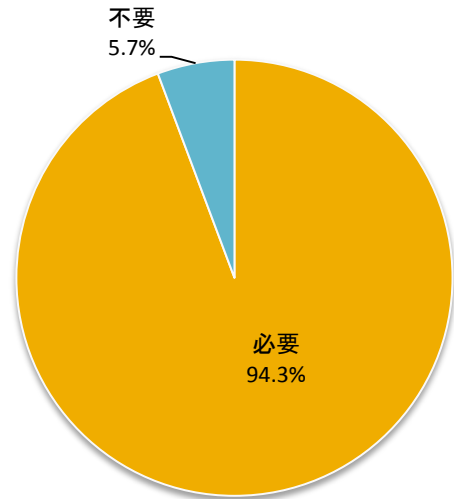
Q3. 近所のお付き合いはありますか？

順位	回答	回答数	%
1	あいさつする程度	39	55.7%
2	ある	30	42.9%
3	ほとんどない	1	1.4%
	合計	70	100.0%



Q4. 地域の見守りや支え合いは必要だと思いますか？

順位	回答	回答数	%
1	必要	66	94.3%
2	不要	4	5.7%
	合計	70	100.0%

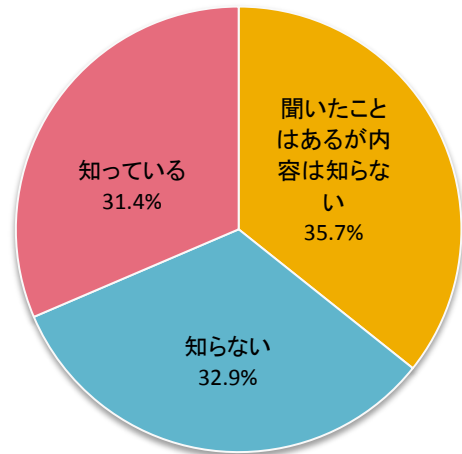


Q5. 「地域包括ケアシステム」という言葉を知っていますか？

【地域包括ケアシステム】

高齢になっても地域の中で安心して生活ができるよう、必要な医療や介護、日常生活の支援が受けられる体制と、社会とのつながりを保ちながら、介護予防に取り組み、できる限り自分のペースで生活できる環境が一体的に提供される体制のこと。

順位	回答	回答数	%
1	聞いたことはあるが内容は知らない	25	35.7%
2	知らない	23	32.9%
3	知っている	22	31.4%
	合計	70	100.0%

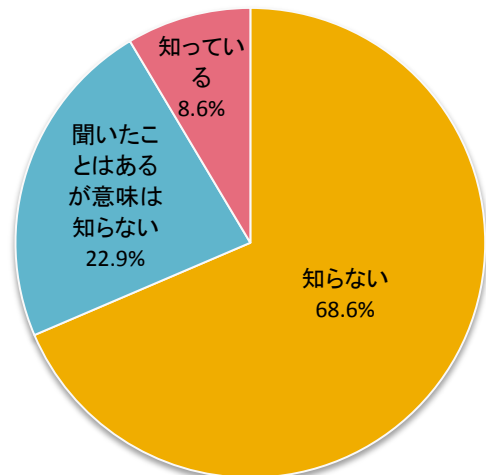


Q6. 「ぐるっとマルごと東広島」という言葉を知っていますか？

【ぐるっとマルごと東広島】

みんなでつながって輪になり、高齢者を支えあう地域づくり(東広島版地域包括ケアシステム)を表現した言葉です。

順位	回答	回答数	%
1	知らない	48	68.6%
2	聞いたことはあるが意味は知らない	16	22.9%
3	知っている	6	8.6%
	合計	70	100.0%

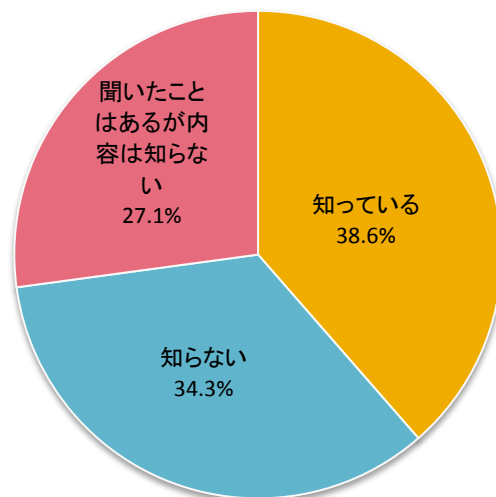


Q7. 「地域包括支援センター」をご存じですか？

【地域包括支援センター】

介護や健康、権利や財産、地域での暮らしなど、高齢者の総合相談窓口です。専門職（主任ケアマネジャー、保健師、社会福祉士）が連携を取り合って高齢者の支援を行います。介護にかかわるケアマネジャーへの支援をはじめとして、さまざまな関係機関や地域住民のみなさんと協力できるネットワークづくりを進めながら、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを目指しています。

順位	回答	回答数	%
1	知っている	27	38.6%
2	知らない	24	34.3%
3	聞いたことはあるが内容は知らない	19	27.1%
	合計	70	100.0%

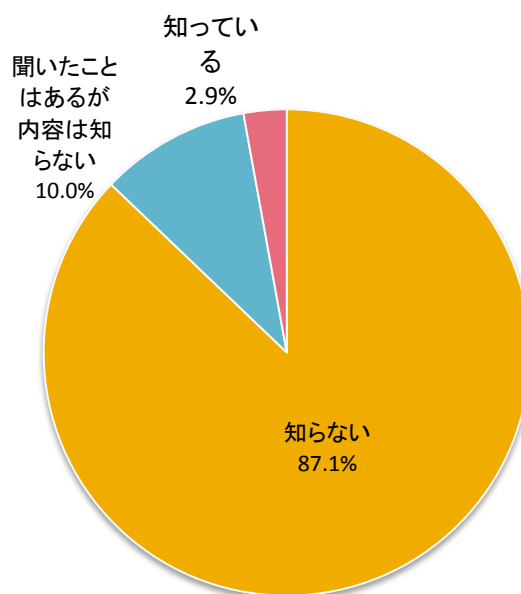


Q8. 「ACP(アドバンス・ケア・プランニング)」という言葉を知っていますか？

【ACP(Advance Care Planning)】

これから受ける医療やケアについて、あなたの考えを家族や医療者と話し合っ、「私の心づもり」として文書に残すことで、希望や思いを医療やケアに反映させる手順です。

順位	回答	回答数	%
1	知らない	61	87.1%
2	聞いたことはあるが内容は知らない	7	10.0%
3	知っている	2	2.9%
	合計	70	100.0%

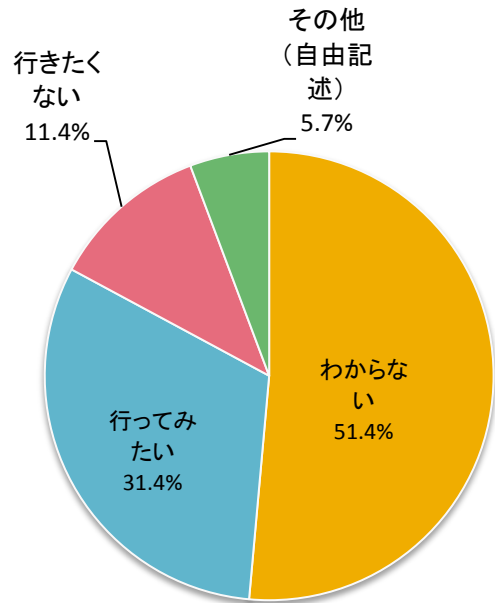


Q9. 9月29日土曜日に「ぐるマルフェスタ2018」を開催しますが、行ってみたいと思いますか？

【ぐるマルフェスタ2018】

地域包括ケアシステムや地域包括支援センターについて、知ってもらうためのイベントで、今年初めて開催します。

順位	回答	回答数	%
1	わからない	36	51.4%
2	行ってみたい	22	31.4%
3	行きたくない	8	11.4%
4	その他(自由記述)	4	5.7%
	合計	70	100.0%



【その他の内容】

- ・知ったのが遅くて、終わっていた。
- ・今現在の自分自身の状況では行ってみたいと思わないが、このようなイベントがあるのは良いと思う。いずれ行ってみたいと思う。
- ・今後のために内容は気になるが、身内に介護を受けている人がいないこともあり、時間を割いてまで行かないと思う。
- ・予定があっていけない。

The left side of the flyer features a colorful header with the event title 'ぐるマルフェスタ2018' and the date '9月29日土曜日'. Below the title, there are several sections of text and images, including a '福祉講演会' (Welfare Lecture) and a '認知症講演会' (Dementia Lecture). The text is arranged in a grid-like fashion with various icons and photos of speakers.

The right side of the flyer is a grid of small, colorful boxes, each representing a different activity or service available at the event. The boxes include titles like '健康測定 体力測定' (Health Measurement Physical Measurement), 'VR認知症体験' (VR Dementia Experience), and '福祉体験' (Welfare Experience). Each box contains a small image and a brief description of the activity.

■ 自由記入

Q10. その他、アンケートの感想やご意見等ありましたら、記入してください。(自由記述)

(主な回答内容)

- ・ わたくしは、介護保険の要支援2です。介護予防のため、通所リハビリテーションで、デイケアを利用しています。介護保険を使用しているので、介護を受けていることになるのか、介護予防のケアなので介護を受けてはいないのか、よくわからないのです。
「地域包括ケアシステム」について全く分かっていませんし、介護保険を使用しているのにお恥ずかしい限りです。自分としては介護を受けなくてもよいように、予防のためリハビリを願ひし、リハビリに励んでいる次第です。もっと学ばねばならないと痛感しています。
- ・ 東広島市(他市の考え方でも多いように感じますが)の地域包括ケアシステムの考え方が、「高齢者」に偏りすぎている感があります。
地域包括ケアシステムは「ニーズに応じた住宅が提供されることを基本とした上で、生活上の安全・安心・健康を確保するために、医療や介護のみならず、福祉サービスを含めた様々な生活支援サービスが日常生活の場(日常生活圏域)で適切に提供できるような地域での体制」と定義する。その際、地域包括ケア圏域については、「おおむね30分以内に駆けつけられる圏域」を理想的な圏域として定義し、具体的には、中学校区を基本とする。」(地域包括ケア研究会(平成20年老人保健健康増進等事業)より)とあり、高齢者に限定された概念とは異なります。
そもそも、前述のニーズを考えた場合、高齢になっても、障害を負っても住み慣れた地域で安全・安心・健康的に生活できる仕組みのことを地域包括ケアシステムであると読み解くことができます。地域包括ケアシステム構築には、高齢者の問題だけでなく、障害者、子育て、小児期の健康教育、青年・壮年期の健康増進など、本市健康福祉部の担当課を横断した取り組みが必要だと考えます。
- ・ 子世帯が親世帯の近くに住むことができるよう、子世帯からの要望が市にあった時はできるだけ親世帯の近くに住宅を探してあげるとか、不動産屋の紹介をするとか、そういったことはあっても良いと思う。空き家が増えてるならその空き家をリフォームして提供するとか…若い世帯に来てもらうならショッピングモールを作るとか、若い世帯に人気の店舗を入れ込んで地域活性化に繋がることも必要だと思うけど、そうなると医療や幼児施設の充実化も必要だと思います。
東広島市は小児科や休日病院の復旧率が悪くて若い世帯には住みにくい環境だと思うので、もう少し若い世帯に来てもらうなら他の市のそういうところを見学して検討する必要があるのでは?と思います。
- ・ 高齢者の生活について考えるようになったのは、自分の母が私にとっての祖母の介護を始めた、自分が高齢者の多い場所に引越したことがきっかけかと思います。
それまではあまり意識していませんでした。
高齢者が身の回りに多い現在に、何も関わりなく過ごすことももちろんできますが、興味を持ち互いに関わり合いながら日々を送ることの良さを感じるようになりました。
高齢者は、今から私になるものであり、正しくは知らない未知のものではあります。地域とのつながりのこれからについては、自分のこととしても、考えていくことだなと思います。
- ・ 口腔ケアは身近な問題で肺炎予防に必要不可欠なことなので、興味を持った。
今高齢の義理の両親と同居しているので介護は重要な課題である。
- ・ ぐるマルフェスタ、行けたら行ってみたいです。VR認知症体験が気になります。
- ・ ぐるっとマルごと東広島という名称は、私にはピンとこないです。チラシをもらいましたが、なんだろう?と思いました。
- ・ 顔見知りのいないところで生活するのは不安。
- ・ 介護や健康のこと考えてみたいと思いました。
地域との繋がりが大切だと思います。
- ・ ぐるマルフェスタ、いつか行きたかったのですが、あいにく都合がつかなくて今回は行けません。またの機会を楽しみにしています。

- ・ 地域高齢化は中山間地域ではとても重要な案件です。
特に家族は居ても都会で生活しているため高齢者を見ることは出ません。かといってほっておくことも出来ず、仕事を止めて早期退職等で一人単身で同居を二十年以上してきました。
高齢者が住むには、直ぐ必要な商店がない、直ぐ必要な病院がない、直ぐ必要な交通機関がない、本当に怖いぐらい何もないです。これは、現実に住んでみないと理解出来ないと思います。
今は、街の生活をして介護サービスを受けています。中山間と都会での地域差は大変な差です。
- ・ 医療も福祉サービスもすべて拒否の義母の介護に、精神的にまいってしまうことが多々ありました。
優しくできない自分のこともイヤになってしまったり。
なので、自分自身は子供たちに迷惑をかけないためにも、福祉の活用に抵抗をもたないですむよう日々勉強していきたいと思っています。
- ・ このアンケートで初めて知る事も多くあり、名前だけでも知っておく良いきっかけになる。
- ・ 西条に引っ越す前は仕事の関係でマンションやアパートに数年おきに引っ越して住む暮らしをしていました。
近所付き合いは大切だと思うけど、隣近所の人との関わりは皆無に近かったです。
唯一、実家と島根の田舎のアパートに暮らした時は、アパート住民と関わりやすく、挨拶やバーベキュー、作って余ったおかずを貰ったり、畑で作った野菜や山で取れた柿等の果物等々貰ったりしていました。
近所にどんな人がいて、どんな人で、いざという時に助け合いができる田舎のような環境が理想だと思いますが、都会の方だと隣近所に誰が住んでいるかわからないし、挨拶すらなかったこともありました。
もちろん助け合いなんて皆無です。
近隣住民と交流ができるシステムがあれば良いなと思います。
- ・ 路線バスが通らない道を通る小型のコミュニティバスなどを走らせて、お年寄りが少しでも外に出やすくするのもいいと思います。
お年寄りでなくてもこの街は車がないと外出しにくいと感じます。
- ・ 認知症。もしかしたら来るであろう親の介護。
その先、自分が誰かのお世話にならなければいけないかもしれない。だからこそ、今学んでおきたいです。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

